

令和8年度第1回千葉県地域リハビリテーション協議会開催結果概要

1 日 時 令和8年7月8日(水) 18時00分～18時45分

2 会 場 オンライン開催

3 出席者 協議会員総数16名中15名出席(50 音順・敬称略)

荒井泰助、荒木誠、岩本明子、薄直宏、梶原崇弘、加藤那美子、金井要、川越正平、
菊地尚久、久保木知子、佐藤恵美子、高木憲司、松尾真輔、村田淳、米内聖子

オブザーバー1名出席(敬称略)

田中康之(県リハビリテーション支援センター)

4 会議次第

1) 開会

2) 議事事項

(1)地域リハビリテーション支援体制整備推進事業について

(2)各支援センターの令和7年度活動結果及び令和8年度活動計画について

(3)その他

3) 閉会

5 会議結果概要

1) 開会

事務局から、新たに就任された久保木知子協議会員(公益社団法人千葉県看護協会)の紹介を行った。

2) 議事事項

(1)地域リハビリテーション支援体制整備推進事業について

(2)各支援センターの令和7年度活動結果及び令和8年度活動計画について

上記2点について、事務局から資料1及び資料 2-1 について説明を行い、以下のとおり質疑及び意見があった。

(荒井協議会員)

ちば地域リハ・パートナーについて、近年ではほぼ横ばいとなっているが、今後の方向性としては、数を増やしていくのか、それとも質を高めていくのか。

(事務局)

母数がないと質を高めても必要なところまでいきわたらないため、まずは数の確保が必要と考えているが、併せて、市町村との連携等のためには、質の向上も必要であると考えている。

先ほど説明した研修プログラムで、広く興味を持っていただきつつ、質も向上させていくこととしているので、この研修プログラムに多くの方が出席いただけるよう、実施者である県リハビリテーションセンターとともに工夫していきたい。

(高木協議会員)

ちば地域リハ・パートナーの具体的な取組の中で、在宅神経難病者に対する機器の紹介や体験、相談を実施しているというものがあつた。障害がある方向けの取組は高齢者向けの取組と比べて少なく、非常に素晴らしいと思う。福祉用具の使い方等を案内する機会はなかなか無いので、これこそ地域リハビリテーションの役割だと思う。

また、千葉リハビリセンターも力を入れている高次脳機能障害のリハビリや普及啓発について、回復期リハの段階で十分に診断されないまま退院してしまい、福祉の領域にうまくつながらないことが多い。ここも地域リハビリテーションの役割だと思うので、期待をしている。

(菊地協議会長)

千葉リハビリテーションセンターは千葉県の高次脳機能障害者支援センターとなっており、急性期・回復期リハでの高次脳機能障害の診断状況について深掘りを行い、アピールしていきたいと考えている。

(田中オブザーバー)

ここ3年ほど、県支援センターが広域支援センターに訪問する際には、高次脳機能障害の担当職員も同行して、広域支援センターと協働する体制づくりを進めている。

また福祉用具についても、広域支援センター等から相談があれば適宜対応しているが、ここ数年リフトリーダー研修というものを実施しており、昨年度は市原広域支援センターで実施した。

個別の訪問となると、リハ・パートナーの身分保障であったり、金銭面の対応であったりと難しいところが多いが、相談という面ではかなり進んできていると思う。

(金井協議会員)

リハ・パートナーの活動について、項目を分けてわかりやすくしたことは非常にいいことだと思う。今後も集計して、使っていただきたい。

また、2月8日に幕張メッセで開催された地域リハフォーラムについて、内容を報告いただきたい。

(田中オブザーバー)

地域社会に根ざしたリハビリテーションとはどういったものかをテーマに開催した。

初めに導入研修を行い、次に予防医学・訪問看護・社会福祉にかかわる有識者3名にお話しいただいたのち、この3名で地域社会に根ざしたとはどういうことなのかを深掘りするディスカッションを行ってもらった。また、広域支援センターやリハ・パートナー等でポスターセッションを行い、最後にグループワークを行って、地域社会に根ざしたリハビリテーションとは何か、参加者で掘り下げを行った。

私自身は体調不良で参加できなかったが、100名程度参加いただいたと聞いている。

(金井協議会員)

実は私も参加したが、かなり賑わっていて良かった。ポスターセッションで、すべての広域支援センターの展示があったわけではなかったのが少し残念だったが、これからも続けてもらえばと思う。

(3)その他

事務局から参考資料「医療施設におけるリハビリ専門職の配置について」について説明を行った。

3) 閉会